

119



安心

防火・防災・
救急事故対策 虎の巻

アドバイザー

ハンドブック



京都市消防局

KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT

1	安心アドバイザーってなんだろう？	
	京都市内の火災発生状況	2
	火災による死者の発生状況	2
	高齢社会に備えて	3
	安心アドバイザー研修	3
2	防火のポイントを知ろう	
	原因別防火のポイント	4
	在宅酸素療法中の火災危険	11
	京都市の焼死者防止 実践ファイブ!	12
	防火のチェックとアドバイスをお願いします	13
3	正しい119番通報の知識を身に着けよう	
	119番通報はどこにかかるの？	15
	緊急通報システム「あんしんネット119」	17
	消防ファクシミリ	20
	NET119	21
	京都市版ヘルプカード	22
	#7119	23
	正しい119番の利用を	23
4	早く確実に消火しよう	
	消火の四要素	24
	消火要領	25
	火災の種類と消火器	26
	消火器の設置場所	27
	消火器を廃棄する場合の注意事項	27
5	住宅用防災機器等を備えよう	
	住宅防火安心マーク	28
	住宅における出火防止	28
	火災の早期発見	30
	初期消火、避難、延焼防止	32
6	災害に備えよう	
	震度とマグニチュード	36
	家具の転倒・落下防止対策	38
	非常持出品と備蓄品	41
	水害時の避難対策	42
	土砂災害時の避難対策	42
	避難場所	43
	マイ・タイムライン	43
	ハザードマップ	44
	避難情報の種類	45
	情報収集の方法	46
7	救急事故を予防しよう	
	熱中症対策	47
	家庭内における救急事故	49
	〈付録〉消防局・消防署一覧表	51

1

安心アドバイザーってなんだろう？

●京都市内の火災発生状況

京都市内の過去5年間の火災件数を見ると、毎年、() 件前後の火災が発生し、その約() 割が車両火災や林野火災等を除いた建物火災で占められています。

また、建物火災の約() 割が一般住宅や共同住宅といった住宅からの火災です。

●火災による死者の発生状況

一方、建物火災による死者の発生状況に目を向けると、過去5年間の京都市内における火災による死者は() 名(自殺者等を除く。)で、そのうちのほとんどの方が住宅火災によるものです。

また、そのうち約() 割の方は逃げ遅れが原因で亡くなられています。

さらに、住宅火災による死者のうち約() 割が65歳以上の高齢者で占められており、高齢者の焼死防止対策が最重要課題となっています。

●高齢社会に備えて

消防局では、消防職員が特に火災の犠牲になりやすい高齢者の居住する住宅を訪問し、生活の実態に合わせたきめの細かい防火安全指導を行っています。

しかしながら、京都市の高齢者の全人口に占める割合（高齢化率）は（ ）%を超えており、今後、より一層、高齢者を地域や社会全体で支え合う体制を構築していかなければなりません。

●安心アドバイザー研修

そこで、消防局では、地域で高齢者等に対する介護などの活動をされているホームヘルパー、老人福祉員、民生児童委員などの保健福祉関係者の皆さんに、防火・防災・救急事故対策に関する知識と技術を身に付けていただき、高齢

者や障がいのある方のお宅へ訪問された際には、安心アドバイザーとして、防火・防災などの助言や指導をお願いしています。



2

防火のポイントを知ろう

●原因別防火のポイント

今後、社会の高齢化がますます進展していくことが予測され、このまま推移すれば火災による高齢者の焼死が増加することが懸念されます。また、高齢者が亡くなられた火災を分析しますと、「ほんの少し注意をしていれば火災の発生を防げた」「ほんの少し防火の備えがあれば亡くならずに済んだ」と思われる火災が少なくありません。

高齢者のお宅から火災を出さないために、また、焼死者を出さないためには、高齢者が関わった火災の実態と火災から身を守る方法を知っていただくことが必要です。そのため、ここでは、高齢者が出火責任者となった主な火災原因であるたばこ、ストーブ、こんろ、ローソク、電気などについて原因別に防火のポイントを紹介します。





たばこ

毎年、たばこによる火災は、火災原因の上位に入ります。その多くが「喫煙中に寝込んでしまった」「吸い殻の火種を確認せず、くずかごに捨ててしまった」などの不注意によるものです。

たばこによる火災を防ぐには、次のことを心掛けましょう。

- ①寝たばこは、絶対にしない。
- ②灰皿は、ふちの広い、安定したものを使う。
- ③灰皿には水を入れる。
- ④吸い殻は、確実に消す。
- ⑤外出や就寝前は、喫煙場所を確認する。
- ⑥くわえたばこで家の中を歩き回ったり、家事をしない。
- ⑦吸い殻を捨てるときは、水を掛けるとともに、確実に消火できていることを確認してから捨てる。



関連動画

ストーブ

ストーブの周りに燃えやすい物を置いたり、ストーブをカーテンや布団等に近付けて使用したりすると、ストーブの火源との接触や放射される熱により、火災になるおそれがあります。

ストーブによる火災を防ぐには、次のことを心掛けましょう。

- ①ストーブの周りに燃えやすい物を置かない。
- ②壁やカーテン等とは、十分な距離をとる。
- ③外出や就寝前には、必ず火を消す。
- ④近くにスプレー缶等を置かない。
- ⑤ストーブで洗濯物を乾かさない。
- ⑥火を付けたままで、給油をしない。
- ⑦給油タンクの蓋は、緩みのないよう確実に締め付けた後、給油タンクをストーブにセットする。





こんろ

天ぷら油を加熱中にこんろの火を消さずにその場を離れると、天ぷら油が発火温度に達し、火災になります。

また、こんろの周りに燃えやすい物が置いてあると、こんろの直火に触れたり、放射される熱で燃えることがあります。

こんろによる火災を防ぐには、次のことを心掛けましょう。

- ①火を付けたままで、その場を離れない。
- ②点火後は、炎の大きさを調整する。
- ③こんろの周りに燃えやすい物を置かない。
- ④こびりついた油污等、こまめに掃除する。
- ⑤傷んだり古くなったガスホースは、早めに取り替える。
- ⑥衣服の袖口など、着衣着火に気を付ける。
- ⑦天ぷら油に火がついたら絶対に水をかけない。



関連動画

ローソク・線香

仏壇や神棚などにローソクや線香を供えるときは、周りに燃えやすい物がないか、確認する必要があります。

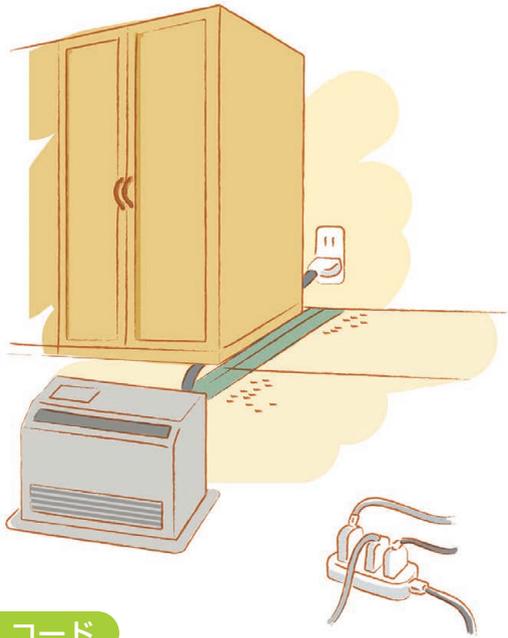
ローソク立ては、風や振動で容易に倒れない安定した物を使用しましょう。

また、ローソクの火が着ている服などに燃え移り、大やけどをすることもあります。

ローソクなどからの火災を防ぐには、次のことを心掛けましょう。

- ①ローソクや線香に火を付けたときは、その場を離れない。
- ②ローソク立ては、安定した物を使用する。
- ③ローソクや線香の周りに燃えやすい物を置かない。
- ④マッチ等の燃えかすは、確実に始末する。
- ⑤ローソクの形をした電灯の使用も検討しましょう。





電気器具・コード

電気は、裸火を使わないため安全だと思いがちですが、傷ついたコードが短絡したり、たこ足配線でコードが発熱して火災になることがあります。

また、プラグを長期間コンセントに差し込んだまま使用していると、ほこりや水分が作用して出火することがあります。（トラッキング現象）

電気器具等による火災を防ぐには、次のことを心掛けましょう。

- ①コードをタンスなどの下に敷いたままにしない。
- ②劣化、破損したコードやプラグを使用しない。
- ③たこ足配線をしない。
- ④コードを束ねたまま使用しない。
- ⑤プラグは、長期間コンセントに差し込んだままにせず、時々、乾いた布で掃除する。
- ⑥電気配線の素人工事はしない。



関連動画

放火

放火による火災は昭和51年から平成27年まで40年連続で京都市の火災原因1位になるなど、非常に多く発生しています。

放火火災を防ぐには、普段から放火されない環境をつくることが大切です。

放火による火災を防ぐには、次のことを心掛けましょう。

- ①建物の周りなどに、燃えやすい物を置かないようにしましょう。
- ②門扉や物置にはしっかり鍵を掛けて、不審者の侵入を防ぎましょう。
- ③夜間には屋外の照明を点灯するなど、明るくしましょう。
- ④センサーライトなど、放火火災の防止に有効な機器を設置しましょう。
- ⑤放火火災を防ぐための地域活動に、積極的に参加しましょう。
- ⑥その他、車やバイクのボディカバーは防災品を使うなど、できる限りの放火防止に努めましょう



●在宅酸素療法中の火災危険

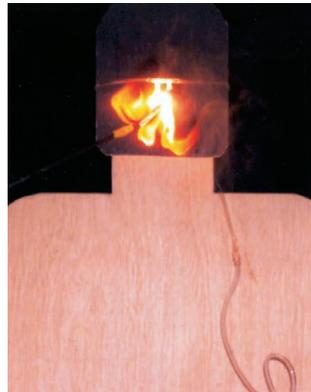
在宅酸素療法（Home Oxygen Therapy 通称HOT）とは、慢性呼吸器不全の方が自宅に酸素供給機器を設置し、必要なときに酸素吸入をする在宅療法で、鼻腔カニューラ（室内で15～20mの延長が可能）による吸入が一般的です。

酸素は可燃性ガスではないので自ら燃焼することはありませんが、支燃性ガスのため、燃えている物を更に燃えやすくする性質があります。

酸素吸入中に、喫煙しようとして炎がチューブに着火したり、蚊取り線香の火が知らない間に着火するなどして、負傷されたり亡くられるケースが後を絶ちません。

在宅酸素療法をされている方へは、次のことを心掛けるよう指導してください。

- ①酸素吸入中は火気厳禁、禁煙です。
- ②周囲2m以内に火気を置かないようにしましょう。線香、ローソク、蚊取り線香、たばこ、ガスこんろ、暖房器具などに注意しましょう。
- ③喫煙中の人にも近付かないようにしましょう。
- ④やむを得ずに喫煙・調理など火気を使用する場合は、酸素の供給を停止しましょう。
- ⑤酸素供給機器等を使用しないときは、電源を切りましょう。
- ⑥在宅酸素療法をされている方だけでなく、家族や周囲の人々も火気管理等に注意しましょう。



●たばこが有炎燃焼すると、容易にカニューラの吹き出し口に着火し、即燃的に燃焼する。

●京都市の焼死者防止 実践ファイブ!

火災によって大切な命を落とさないために、今すぐこの5項目を実践してください。



関連動画

き 気付けばすぐに119

住宅用火災警報器の鳴動音が聞こえるなど、いつもと違うことに気付いたら、すぐに119番通報をしましょう。通報の遅れが焼死者発生の大きな要因となっています。

よ 用心!たばこ暖房器具

寝ている間のたばこや暖房器具による火災で、多くの焼死者が発生しています。寝たばこは絶対にやめましょう。電気ストーブや石油ストーブは、寝る前に必ず消しましょう。

う うちのふとんは防災品

ふとんやパジャマ、エプロンなど身近な繊維製品には、防災品のもので作られています。防災品は火が付いても燃え広がりにくい性質を持っています。万一の火災に備え防災品を使いましょう。

と とにかく逃げよう 戻らない

火の小さいうちは初期消火が有効ですが、炎が大きくなって自分で消すことが難しい場合は、すぐに避難しましょう。一旦避難した後は、絶対に戻らないようにしましょう。

し しっかり付けよう 住警器

火災の発生に少しでも早く気付けるよう、寝室・階段・台所には必ず住宅用火災警報器を付けましょう。万一のときに正しく作動するよう、日頃のお手入れも忘れずに!

● 防火のチェックとアドバイスをお願いします

<p>たばこ</p> <p><input type="checkbox"/> 吸う</p> <p><input type="checkbox"/> 吸わない</p>	<p><input type="checkbox"/> 灰皿は縁の広いものを使用している</p> <p><input type="checkbox"/> 灰皿に水を入れている</p> <p><input type="checkbox"/> 灰皿に吸い殻がたまっていない</p> <p><input type="checkbox"/> 決まった場所で喫煙している</p> <p><input type="checkbox"/> 灰皿の周りに燃えやすい物はない</p> <p><input type="checkbox"/> ごみ箱に吸い殻を捨てていない</p> <p><input type="checkbox"/> 床面や布団に焦げ跡がない</p>
<p>こんろ</p> <p><input type="checkbox"/> ガス</p> <p><input type="checkbox"/> 電気</p>	<p><input type="checkbox"/> 調理中はその場を離れない</p> <p><input type="checkbox"/> 周りは整理整頓されている</p> <p><input type="checkbox"/> グリル内はこまめに手入れし、油かす等がたまっていない</p> <p><input type="checkbox"/> そばに燃えやすい物はない</p> <p><input type="checkbox"/> ガスのゴム管が劣化していない</p> <p><input type="checkbox"/> 壁から離して置いている（15cm以上）</p> <p><input type="checkbox"/> 安全装置が付いている</p>
<p>ストーブ</p> <p><input type="checkbox"/> 灯油</p> <p><input type="checkbox"/> ガス</p> <p><input type="checkbox"/> 電気</p>	<p><input type="checkbox"/> カーテンや家具に近付けて置いていない</p> <p><input type="checkbox"/> ストーブ上に洗濯物を干していない</p> <p><input type="checkbox"/> 周りに燃えやすい物を置いていない</p> <p><input type="checkbox"/> 付けたまま寝ていない</p> <p><input type="checkbox"/> 灯油は適正な場所に置かれている</p> <p><input type="checkbox"/> 時々換気をしている</p>

電気器具・コード	<input type="checkbox"/> カーペットや家具の下敷きになっていない <input type="checkbox"/> コードを束ねたまま使用していない <input type="checkbox"/> たこ足配線をしていない <input type="checkbox"/> 使用しない機器のコードは抜いている <input type="checkbox"/> コンセントやプラグにほこりがたまっていない <input type="checkbox"/> プラグがコンセントに確実に挿さっている(取り付けている)
ローソク・線香	<input type="checkbox"/> 火を付けたまま、その場を離れていない <input type="checkbox"/> 安定したローソク立てを使用している <input type="checkbox"/> 床面に焦げ跡がない <input type="checkbox"/> 灰はこまめに掃除している(灰がたまっていない)
緊急通報システム	<input type="checkbox"/> 適正な場所に置かれている <input type="checkbox"/> 使い方や仕組みを理解している
住宅用火災警報器	<input type="checkbox"/> 住宅用火災警報器を付けている(寝室・階段・台所) <input type="checkbox"/> 点検の結果、正常に作動する
その他	<input type="checkbox"/> 廊下や階段に燃えやすい物や避難の支障となる物を置いていない <input type="checkbox"/> 家の周りに燃えやすい物を置いていない <input type="checkbox"/> 近隣者等による救出体制ができている <input type="checkbox"/> 前回の指導事項が改善されている

3

正しい119番通報の知識を 身に付けよう

● 119番通報はどこにかかるの？

京都市内からかけられる119番通報は、全て京都市消防局の消防指令センターで受け付けています。

ただし、携帯電話から通報があった場合、発信する場所によっては、京都市周辺の消防本部につながる場合があります。このような場合には受信した消防本部から京都市消防局の消防指令センターへ転送又は連絡されます。

通 報 の ポ イ ン ト

119番通報をするときは慌てず正確に

- 1：火事か救急か
- 2：住所（目標物も併せて）
〇〇区〇〇町〇〇番地
（目標：〇〇小学校南側など）
- 3：氏 名
- 4：燃えている物の状況、けがの状況などを伝えます

携帯電話からの通報

スマートフォンや携帯電話、PHS から119番通報をする場合は、電波の良い場所からかけてください。電話が途切れたり、切れたりするおそれがありますので、場所を移動せずに通報してください。また、住所は、市町村名から伝えてください。

公衆電話からの通報

公衆電話から119番通報する場合は、赤い緊急通報用ボタンを押し、119をダイヤルしてください。

また、赤い緊急通報用ボタンが付いていない場合は、受話器を上げて、そのまま119をダイヤルしてください。

緊急通報システム「あんしんネット119」

高齢者や身体に障がいがある方が家庭内で急病や火災等の緊急事態に遭われたとき、機器の押しボタン、ペンダント型押しボタン又はまくら元用押しボタンを押すだけで自動的に消防指令センターに通報できる緊急通報システム「あんしんネット119」があります。

消防ファクシミリ

耳や言葉の不自由な方からの緊急通報を確保するため、自宅のファクシミリを使用した「消防ファクシミリ」があります。

NET119（ネット119）

耳や言葉の不自由な方からの緊急通報を確保するため、スマートフォン等のインターネット機能を利用してチャット形式により文字で通報する「NET119」もあります。

●緊急通報システム「あんしんネット119」

緊急通報システムは、急病や事故などの緊急の場合に自分で対処することが難しい方のために、ボタン一つで消防指令センターへ災害の発生を通報できるシステムです。利用できるのは、おおむね65歳以上のひとり暮らしの高齢者の方や高齢者だけの家庭又は身体に障がいのある方のみで構成される世帯等に属する重度の身体に障がいのある方です。

本体に「緊急ボタン」があるほか、まくら元などに置いておける「まくら元用押しボタン」、いつも首から掛けられる「ペンダント型押しボタン」があり、いずれも押すだけで消防指令センターに通報できます。

また、緊急通報システムを利用されている方のうち、自分で歩くことができない方には、緊急通報システムへ連動する住宅用火災警報器（「緊通連動住警器」といいます。）を設置することができます。この緊通連動住警器が火災等で発生した煙を感知すると、自動的に緊急通報システムを通して消防指令センターへ通報します。

消防指令センターでは、火災か救急か、更に状況を確認し、必要な車両を出動させます。

また、御近所には「近隣協力員」として登録していただいている方がおられ、消防指令センターからの要請により、状況確認などを行っていただくことになっています。

緊急以外のときは、本体の「相談ボタン」を押すことにより、相談センターにつながり、相談センターの職員が対応します。

もし、間違っただけボタンを押したときは、消防指令センターからの問掛けに「間違いです。」と答えてください。返事がない場合は、火災でも救急でも対応できるよう、消防車と救急車の両方を出動させます。



本 体



まくら元用押しボタン

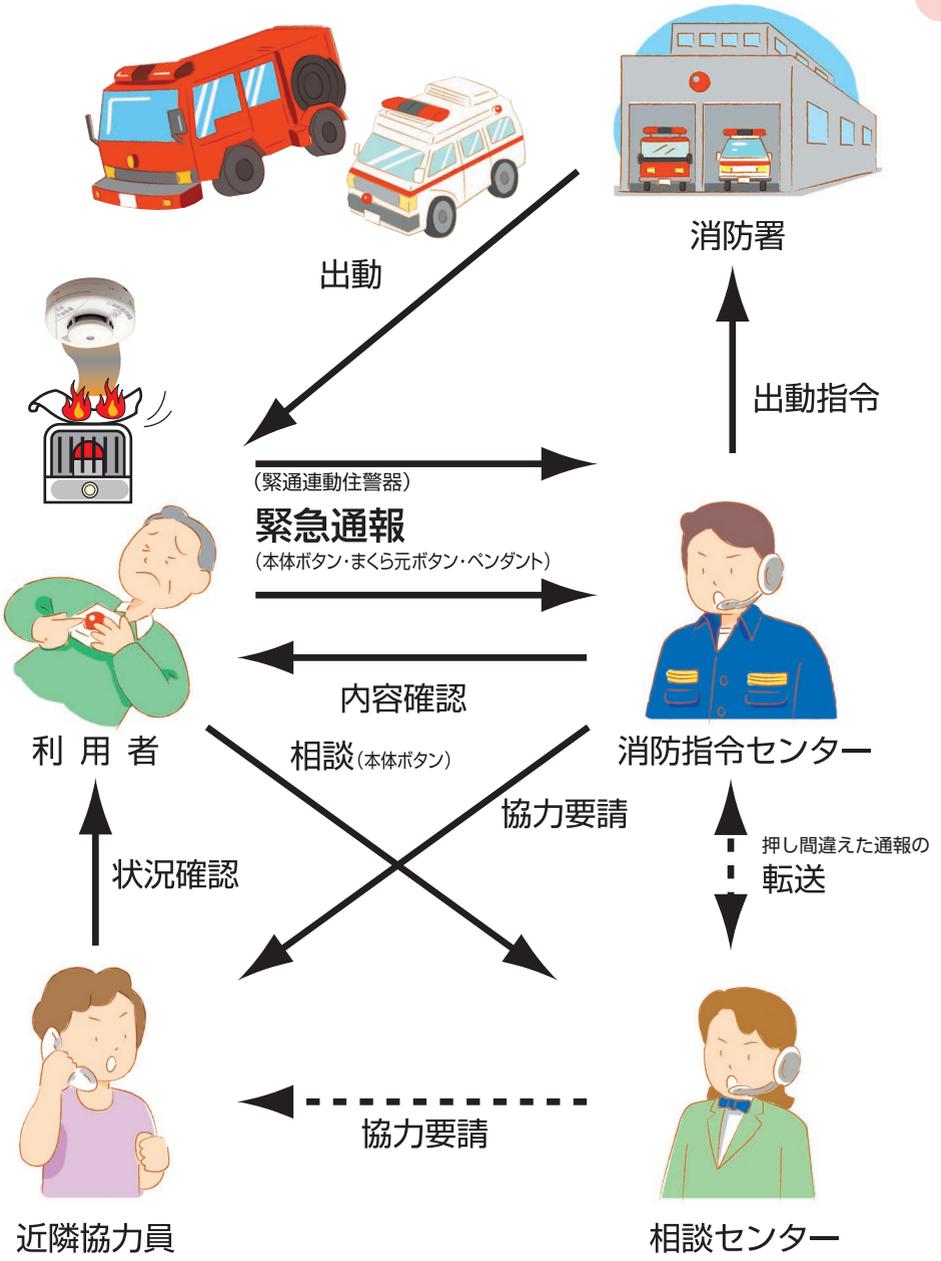


緊通連動住警器



ペンダント型
押しボタン

<緊急通報システム「あんしんネット119」の仕組み>



●消防ファクシミリ

耳や言葉の不自由な方が火災や急病などの緊急事態に遭われ、消防車や救急車が必要なとき、ファクシミリを用いて消防指令センターに通報していただくシステムです。

また、最寄りの消防署では、ファクシミリを用いて利用者の方からの防火防災に関する相談の対応や火災予防に関する情報の提供も行っています。事前申込みが必要です。

消防ファクシミリの仕組み



●NET119

耳や言葉の不自由な方が消防車や救急車を必要とするとき、スマートフォン等のインターネット機能を利用してチャット形式により通報していただくシステムです。

全国どこからでも、通報場所を管轄する消防本部に緊急通報ができる全国统一仕様の通報システムであり、事前申込みが必要です。

NET119を利用できる方は以下のとおりです。

- ・京都市内に居住の聴覚言語障がい者
- ・京都市内に通勤・通学・観光により滞在される聴覚言語障がい者

※御自身の居住する市町村がNET119を導入済みの場合はそちらでお申し込みください。



NET119
リーフレット

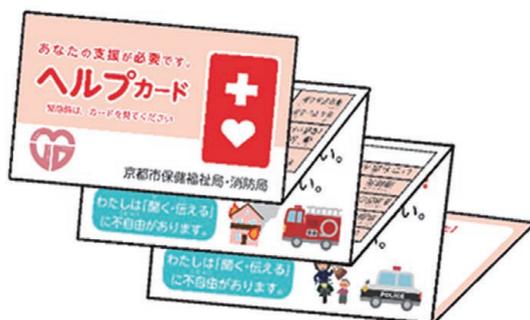


●京都市版ヘルプカード

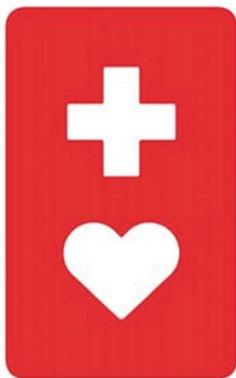
「ヘルプカード」は、耳や言葉の不自由な方、高齢者などに配布しています。

氏名や住所、掛かり付けの病院などが記入できるようになっており、屋外での急病や交通事故などが発生したとき、ヘルプカードを見せることにより、周囲の方に通報を依頼できます。

また、周囲の人や駆け付けた救急隊が、必要な情報を知ることができ、適切な応急処置にも役立つものです。



【ヘルプマーク】



- ヘルプマークは、外見からは分からなくても援助や配慮を必要としている人々が、周囲の人に配慮を必要とすることを知らせることで、援助を得やすくするためのマークです。
- ストラップを利用して、鞆の外側等の見える位置に付けます。
- 京都市では、保健福祉局障害保健福祉推進室や各区役所・支所等の窓口で、希望される人に配布しています。
- なお、ヘルプカードの表紙には、このマークがデザインされています。

● #7119

「家族の様子がなんとなくおかしいけど、救急車呼んだほうがいいのかな?」「具合が悪いけど病院に行ったほうがいいのかな?」このように救急車を呼ぶのか、今すぐ病院に行くべきなのか判断に迷うことがあると思います。

そんなときに24時間365日いつでも看護師からアドバイスが受けられる電話相談窓口が令和2年10月1日から始まった「#7119」です。

ただし、「呼吸をしていない」「脈がない」「意識がない」「大量に出血している」などの場合や自身が緊急と思ったときは、ためらわずに119番で救急車を呼んでください。

**救急の相談窓口 救急安心センターきょうと
#7119または0570-00-7119**

自分で病院を探したいとき

京都健康医療よろずネット 075(694)5499
インターネット案内 (電話 FAX 自動応答)
<http://www.mfis.pref.kyoto.lg.jp/>

● 正しい119番の利用を

消防指令センターでは、1日に()件前後の119番の通報を受け付けています。その中には、いたずら電話、間違い電話、防火の問合せなども含まれています。

消防に関する相談、問合せなどは、最寄りの消防署又は消防の相談電話で、救急に関する相談などは、#7119で、救急医療機関の案内は、京都健康医療よろずネットで受け付けています。

救急車は、年間()回出動しています。平均すると、1日当たり約()回の出動となります。

しかし、その中には、救急車が必要でないケースもあり、救急車を安易に利用された結果、重篤な人の搬送が遅れることも考えられます。救急車の適正な利用に御協力ください。

4 早く確実に消火しよう

● 消火の四要素

物が燃えるためには、燃える物（可燃物）、酸素（支燃物）、熱（発火エネルギー）及び連鎖反応の四つの要素が必要です。

言い換えると、この燃焼に必要な四つの要素の一つでも欠ければ燃焼は継続しません。

このことを利用しているのが、消火の四要素と言われるものです。

- 1：燃える物を取り除く（除去消火）
- 2：酸素の供給源を取り除く（窒息消火）
- 3：温度を下げる（冷却消火）
- 4：連鎖反応を抑制する（抑制消火）

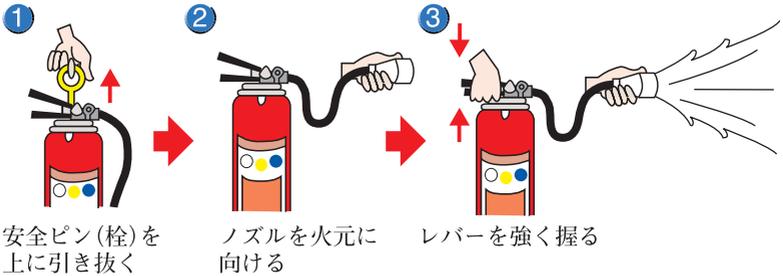
どのような大きな火災でも、最初は小さな炎から始まります。この炎を初期のうちに消すことができれば、大きな火災になることなく、最小の被害で済むのです。

消火要領

火災の初期の消火手段としては、消火器、水バケツ、水道ホースなどがあります。ここでは、広く普及している消火器の取扱要領について紹介します。

消火器で消火できる目安は、炎が天井に達するまでです。炎が天井にまで達したら、消火を諦めて避難してください。

消火器の取扱方法



①放射時間や消火方法を確認しておく。

(10型(高さ約50cm)のもので、放射時間は15秒前後です。)

②火災にはまともに正対しないように、なるべく姿勢を低く、熱や炎を避けるように構える。

③炎や煙に惑わされずに火元にノズルを向け、火元を掃くように左右に振る。

蓄圧式消火器と加圧式消火器の違い

加圧式消火器は、一度レバーを引くと消火剤がなくなるまで放射を止めることができず、本体の腐食やキャップの劣化により容器が破裂する危険があります。

これに対して、蓄圧式消火器は破裂事故の危険がなく、レバーを離せば放射がストップするなど操作性もよいため、各メーカーは加圧式消火器の生産を中止し、蓄圧式消火器に生産を切り替えています。



蓄圧式消火器

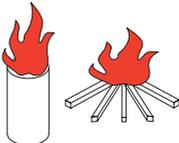
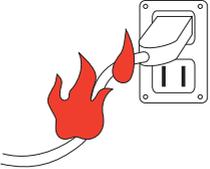


加圧式消火器

●火災の種類と消火器

火災はその燃えている物により、普通火災、油火災、電気火災の3種類に分けられます。

それぞれの火災に適応する消火器を使用してください。

		消火器 適応色表示	住宅用消火器 絵表示	適応する消火器の 種類（代表的なもの）
普通火災用	木材、紙繊維 などが燃える 火災		普通火災適応 	強化液消火器 （棒状・霧状どちら も可） 粉末消火器
油火災用	天ぷらなべの 火災、ストー ブの火災など		天ぷら油火災適応  ストーブ火災適応 	強化液消火器 （霧状のみ可） 粉末消火器
電気火災用	電気コードの ショートによ る火災、プラ グからの出火 など		電気火災適応 	強化液消火器 （霧状のみ可） 粉末消火器

● 消火器の設置場所

台所や洗面所などで、水や油が掛かりやすいところは避けてください。



備え付ける場所は、手の届く見えやすい場所にしてください。棚の上などの高いところや、押入れの奥などに置いておくと、いざというとき使えません。

● 消火器を廃棄する場合の注意事項

- 1 古くなった消火器は軒下、空き地、その他屋外に放置しない。
- 2 容器が腐食した消火器は、絶対にレバーを操作しない。破裂する危険があります。
- 3 消火器は、一般のごみ回収には出せません。
- 4 古くなった消火器をリサイクルする制度（廃消火器リサイクルシステム）があります。
リサイクル窓口へ持ち込むか、又は引取りを依頼（リサイクルシール代と引取りに係る収集運搬費が必要）してください。

■ 廃消火器リサイクルシステムについてのお問合せは
 (一社) 日本消火器工業会 Tel:03(3866)6258 (代表)
 (株) 消火器リサイクル推進センター Tel: 03(5829)6773

■ 消火器の点検業者等についてのお問合せは
 (一社) 京都消防設備協会 Tel: 075(231)7601

5

住宅用防災機器等を備えよう

住宅用防災機器等とは、住宅の防火性能を向上させるため、住宅からの出火防止、火災の早期発見、初期消火、延焼防止、避難のための機器などのことをいいます。

●住宅防火安心マーク

住宅防火対策に効果的な機能を持った機器や製品に付いています。購入の際の目安としてください。



●住宅における出火防止

過熱防止装置、自動消火装置等の安全装置が付加された火気取扱器具があります。

安全調理器具

火災を未然に防ぐための安全装置が付いています。

- ・エリアセンサー(着衣着火防止)
- ・立消え安全装置
- ・調理油過熱防止装置
- ・空だき防止センサー
- ・消し忘れタイマー



※平成20年10月から、ガスコンロ全機種全バーナーに調理油過熱防止装置、立消え安全装置を搭載することが法令によって義務付けられました。



電磁調理器具

火を使わず電磁力により加熱を行う調理器具です。

専用の鍋等で底が平らなものを使用する必要があります。

安全暖房器具

地震や誤って倒したときに自動的に消火する「耐震自動消火装置」、機器内部の温度が規定以上になれば自動的に消火する「過熱防止装置」、炎が露出していない「ファンヒータ装置」などがあります。



日常生活用具給付事業

火災などの心配をなくすために、日常生活用具を給付する事業があります。

利用できるのは … おおむね65歳以上で日常生活に支障のあるひとり暮らし（昼間独居を含む）の高齢者などで生活保護を受給されている方及び前年の市民税非課税世帯に属している方

給付品目は … 電磁調理器・自動消火器・火災警報器（障害のある方のみ）

相談・申込先は … 各区役所・支所保健福祉センター
各高齢サポート（地域包括支援センター）

●火災の早期発見

火災の煙や熱を感知して、警報音（ブザー・音声警報）で火災の発生を知らせる設備や器具があります。

住宅用火災警報器

- ・一酸化炭素中毒の原因となるCOを検知する機能を有したのものや、温湿度を検知し、熱中症を予防するセンサー機能付きの火災以外にも対応する付加価値のある警報器も登場しています。
- ・火災を屋外の人に知らせるため、戸外ブザーを設置できるものもあります。
- ・複数の警報器を信号線でつないだもので、一つの機器が作動したときに、他の機器も警報音を発する連動型のものもあります。
- ・耳の不自由な方のために警報器と連動して光を発する装置等もあります。



住宅用火災警報器の作動確認をしましょう

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで火災の煙などを感知しない恐れがありますので、定期的に作動確認をしてください。

また設置後おおむね10年を目安に交換しましょう。

- 点検方法、点検ボタンを押すか点検ひもを引っ張り、作動確認をしてください。

(※作動した場合は、鳴動音がしますが、数秒で止まります。)

- 電池切れや異常があると……「電池切れです。」等の音声によるお知らせや「ピッ…ピッ…」と短い音が一定の間隔で鳴ります。



住宅用火災警報器は、次の場所に設置が義務付けられています。

- ・ 就寝中は逃げ遅れやすいため……………寝室に
- ・ 逃げ道をふさがれてしまわないため……………階段に
- ・ うっかり火災などが発生しやすい……………台所に

階段

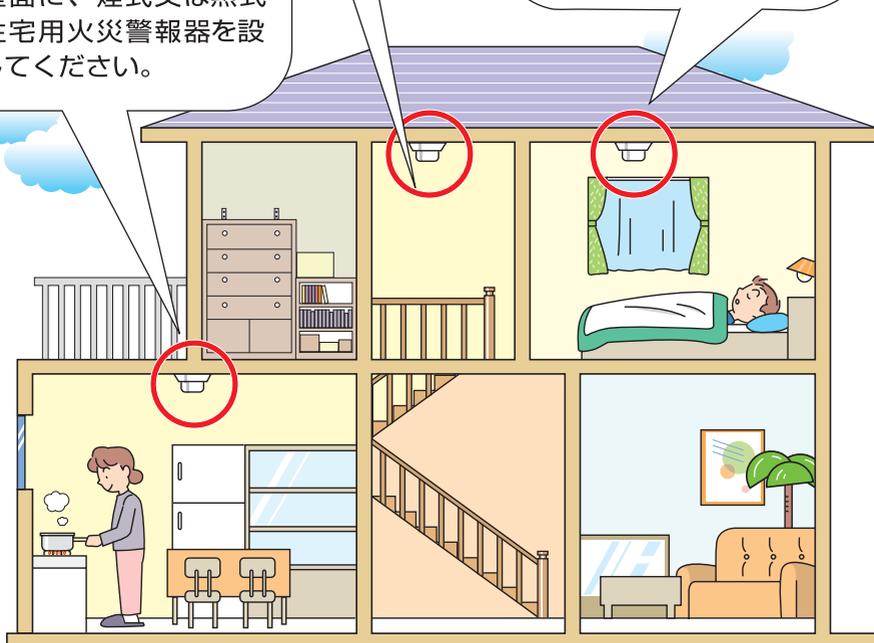
就寝に使用する部屋がある階の、階段の踊り場の天井又は壁面に煙式の住宅用火災警報器を設置してください。

台所

住宅内で火災発生の危険度が高い台所の天井又は壁面に、煙式又は熱式の住宅用火災警報器を設置してください。

寝室

就寝に使用する部屋の天井又は壁面に煙式の住宅用火災警報器を設置してください。



住宅用自動火災報知設備

1台の受信機に煙感知器、ガス漏れ警報器など、様々な感知器をつないで異常を発見し、警報音で知らせます。



火災・ガス漏れ複合型警報器

- ・ガス漏れ警報器は、ガス漏れを感知して警報音、音声警報等で異常を知らせます。
- ・ガス漏れ警報器には、火災や一酸化炭素(CO)を検知し、警報音を発する機能をプラスしたタイプもあります。

ガス漏れ警報器は、都市ガスでは天井付近に、プロパンガスでは床付近に設置します。

●初期消火、避難、延焼防止

消火器、住宅用消火器、その他の消火装置



粉末消火器



住宅用消火器



エアゾール式簡易消火具

いずれも住宅で起こる火災に有効ですが、強化液タイプの住宅用消火器は、冷却効果と浸透性に優れているため、天ぷらなべの火災やストーブの火災に特に有効です。

投てき式消火用具という炎に向かって投げ入れるだけで初期消火できるものも販売されています。



自動消火装置



火災の熱を感知して、自動的に消火液が放出され、火災を消し止めます。

※1

避難器具



避難ロープ



避難はしご

火災が発生すると、煙は階段を伝って上階へ広がります。

上階に避難はしご等を備えておくと、階段が使えない場合でも安全に避難できます。

■住宅用火災警報器、住宅用消火器、避難はしごなどについてのお問合せは

(一社) 京都消防設備協会 Tel : 075 (231) 7601

※安全調理器具、安全暖房器具及び自動消火装置(※1)の写真は住宅防火対策推進協議会のホームページから引用

防 炎 品

炎に触れても焦げるだけで、燃え広がらない繊維製品を防災品と呼んでいます。

防災品には、燃えにくい素材を使ったものと製品に特殊な加工をしたものがあります。

防災品以外の製品と使い心地などは変わらず、また、人体への悪影響なども全くありません。

防災品には、次のようなものがあります。

- ・カーテン、じゅうたん
- ・布団・座布団などの布団類
- ・布団カバー、毛布カバー、枕カバー、シーツ
- ・衣類（寝間着、パジャマ、ゆかた、かっぽう着、エプロン、アームカバー）
- ・仏壇マット
- ・自転車カバー、バイクカバー、自動車カバー

防災品には、「防災ラベル」が付いています。



カーテン、じゅうたんなどに付いている防災ラベル



布団、布団カバーなどに付いている防災ラベル



着火35秒後の燃焼実験

防災品

非防災品

製品例



エプロン



割烹着



アームカバー

■防災品についてのお問合せは

(公財) 日本防災協会京都事務所 Tel : 075 (353) 4675